



地域の概要及び課題

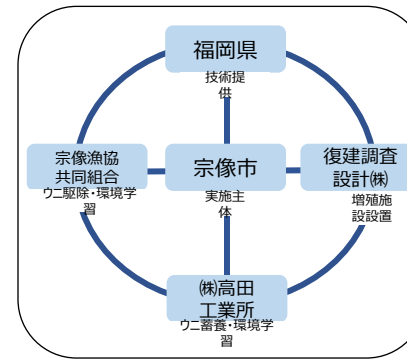
【地域の概要】

- 宗像沿岸に鐘崎、神湊、大島、地島の4つの沿岸域を有する
- 上記の海域には、水深10m未満の浅海域が広がり、アrame・カジメ類、ホンダワラ類、ワカメ等が自生し、天然ワカメは献上ワカメになるなど、水産資源を有する

【課題】

- 磯焼けが進行しており、その原因の一つがウニなど藻食生物
- 若い世代が海の環境問題について理解し、持続可能な取組みを行うことが必要

取り組みの実施体制、連携



活動地名
福岡県宗像市



R6年度モデル事業における取組内容および成果

【藻場再生活動】

- ウニ駆除および海藻増殖による藻場再生効果を定量的に把握し、宗像沿岸域における磯焼け対策の可能性を検討



【成果】

駆除対象ウニを捕獲し、陸上で廃棄食材にて蓄養。そのウニ殻を活用した施肥網を作成し、アカモクの種苗を取り付けた増殖施設を海域へ設置した。

宗像漁協、福岡県、民間事業者と藻場保全に関する新たな連携体制の構築が図られた。

【環境学習の実施】

- 小中学生を対象とした海の環境学習を実施



【成果】

環境学習での、ウニの蓄養体験、ウニの殻割、種苗取り付け体験を通して、海の保全活動について身近で感じてもらい、ふるさとの海への愛着と理解を深めてもらうことができた。

【意見交換会の実施】

- 漁業者や民間事業者等が課題認識を共有する場を提供



【成果】

11月に開催された「むなかた子ども大学」において、小学生が、宗像漁協、高田工業所など関係者や保護者、地域の方々への発表をおこなった。あわせて、関係者で宗像の藻場の保全・再生活動の実施計画や実施状況について、意見交換をおこなった。

今後の課題および 取組方針

- 環境学習の継続によって、当取組みを次世代へ繋いでいくとともに、地域住民に対しても海の保全活動の重要性を認識、理解してもらい、地域一体となった持続可能な取組みにする。
- 藻場再生に関する取組みや、駆除ウニの捕獲活動費用を捻出するため、ウニの陸上養殖の量産化、販売を目指す。